

北井上中学校「学力・学習状況」改善プラン

1 学力向上推進員 職・氏名 (教諭 西林 悦子)

2 学力向上検討委員会構成

職 名	氏 名
校長	鎌田 稔
教頭	高橋 良男
教諭	西林 悦子 (教)
教諭	吉成 昭彦 (3)
教諭	東 條 直人 (2)
教諭	森 聖子 (1)
教諭	川 尻 隆之 (進)

3 現状・課題

学 力	<p>平成21年度「徳島県学力ステップアップテスト」によると、本校では国語科の「知識」「活用」に関する問題ともに、県の平均正答率をやや下回り、特に「書く」領域の記述式問題に対して、正答率が低くなる傾向にある。また基本的な漢字の書き取り、情報を取捨選択して読み手に分かるように書くこと、読み取ったことを条件に合わせて書くこと等に課題が見られる。</p> <p>数学科では、「知識」に関する問題の正答率が高く、基礎・基本が定着しつつある。一方「活用」に関する問題は県平均を上回っているものの、文章から読み取ったことを式や言葉で表現する、「読む」力と「書く力」に課題が見られる。領域ごとの正答率を分析してみると、「図形」と「数量」の「活用」に関する問題が若干苦手である。</p>
学 習 状 況	<p>平成21年度「徳島県学力ステップアップテスト」によると、本校では「家庭での学習を自分で計画を立ててしていますか」という質問に対して、肯定的に答えている生徒は約4分の1という状況である。また「学校の宿題をしていますか」という質問に対しても、約4分の1の生徒が否定的に答えている。</p> <p>このように、家庭学習の習慣があまりついていないため、基礎基本の定着や重要事項の理解が十分でない生徒がいる。</p>

4 目標等

(1) 学力について

重点目標：各教科等の授業において、「読み取る力」「まとめて書く力」を身に付けさせる。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
各教科の授業において、内容を読み取り情報を取捨選択できる力、まとめて書く力を伸ばすような活動を工夫し、計画的継続的に取り組む。	定期テストにおける各教科の「読み取る力」「まとめて書く力」を見る問題の正答率を60%以上にする。(昨年度正答率57%)	各教科等の授業で、さまざまな資料の読み取り方や情報の収集・選択の仕方を学ばせる。 また自分が読み取った内容を条件に合わせてまとめて書いたり、発表したり、意見を交換したりする機会を増やす。 特に数学科では、「図形」と「数量」の活用に関する問題を宿題に取り入れ、基礎基本の充実を目指す。	4・3・2・1	
		定期テストで、「読み取る力」「まとめて書く力」の定着を見る妥当性のある問題を出題する。数値目標の達成状況を把握して、今後の取り組みについて検討する。	4・3・2・1	

(2) 学習状況について

重点目標：家庭学習を確実にやりとげる習慣をつけさせ、基礎基本や重要事項の定着を図る。				
具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
各教科の宿題を確実に取り組ませるとともに、自分に合った学習方法を身に付けさせる	課題の提出率91%以上	わかりやすい授業を展開することにより、知識の定着を図り、意欲的に家庭学習に取り組ませる。 取り組みやすい宿題を継続することにより習慣化を図り、取り組みの状況をチェックする。	4・3・2・1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。